



新年おめでとうございます

皆様のご健康とご多幸を
心よりお祈り申し上げます。



2008年(平成20年)元旦

京都外国語大学附属図書館
京都外国語短期大学附属図書館

図書館フォーラム「絵本で繋がる国際交流」を テーマに開催いたしました

本学図書館は、昨年(2007年)の11月2日(金)に通算9回目となる学園祭協賛行事「図書館フォーラム 学生と図書館」を開催しました。

今回のテーマは「絵本で繋がる国際交流」で、英米語学科3年次生の瀨上倫加さんとイスパニア語学科2年次生の瀨戸千翔世さんに「カンボジアのスタディ・ツアーで得たもの」を。また、大学院生の山本アナ・クリスティーナ・アケミさんには「絵本で学ぶ日本語」と題して発表していただきました。



瀨上さんと瀨戸さんは、子どもたちが内戦や貧困などの要因で学校に行くことが出来ない状況にあるカンボジアに出向き、自分たちが作ったクメール語と英語、日本語の3ヶ国語で書かれた絵本を直接子どもたちに手渡すボランティア活動の紹介と報告をしていただきました。また、山本さんは日本在住のブラジル人の子どもたちに、絵本を用いて日本語習得のための学習支援を行っている様子をお話いただきました。

会場となった第2閲覧室には、このフォーラムの開催が京都新聞でも掲載されたことからか、学生の皆さんに交じって多くの一般市民の方々もつめかけ、活発に質問や意見交換が行われました。(15, 18～19ページに関連記事)

「世界で読まれる源氏物語」のデータベースを 作りました

本学図書館は、紫式部が著した『源氏物語』が宮中で読まれ始めてから、今年で千年になることから、一年前の11月1日に主題別書誌データベース「世界で読まれる源氏物語」を作成して公開しました。

『源氏物語』は千年前に女性が著した本格的な日本文学として早くから優れた評価を与えられ、外国でも多くの研究者が日本語独特の表現に苦勞しながら翻訳に取り組んできました。また、日本でも多くの現代語に訳されており、千年前の文化や風俗が理解できることから、世界に誇れる日本人の大きな文化的遺産となっています。

このデータベースを利用することによって、本学図書館が所蔵する源氏物語の関係図書約540冊の中から、日本語をはじめ、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、イタリア語、ロシア語、スウェーデン語、ハンガリー語、クロアチア語、オランダ語などの翻訳言語ごとに検索できます。また、『紫式部日記』や作品と紫式部の研究書の検索も可能になっています。

これらの蔵書の中には、美しい挿絵の入ったものなどがあり、楽しみながら平安時代の文化や風俗を理解していただければ幸いです。

また、このデータベースの公開は京都新聞でも大きく報道されたことから、学外からも資料利用に対する問い合わせが増えています。